

岩手県立博物館研究報告第二十三号
二〇〇六年三月

盛岡藩御釜師 小泉仁左衛門家の系譜について

付 小泉仁左衛門家文書

時 齋
田 藤
里 里
志 香

小泉仁左衛門家関係記録抜粋

「雜書」 盛岡市中央公民館蔵

延宝六年（一六七八）二月一日

一、若殿様、今度於江戸被 召抱候釜屋五郎八に、式人扶持被下証文、盛岡本御蔵 出之

延宝七年（一六七九）五月二日

一、撞鐘被 仰付候に付、鑄立奉行野田弥右衛門申付之

同年 六月二三日

一、新山川普請場にて、日用錢請取払奉行奥津茂右衛門・田鍍万左衛門申付、鐘 鑄手場日用錢も右同人請取払候様にと申付

同年 八月二三日

一、来廿五日、於新城撞鐘鑄立申に付、御新丸御門番岡本孫左衛門・御本丸御門 番戸来又左衛門、警固相勤候様にと、何も非番故、右之通申渡之

同年 八月二五日

一、今日於新城に撞鐘釜屋五郎八鑄立之

同年 九月一日

一、時鐘之銘、聖壽寺被 仰付之旨、從江戸申来候付、今日老中より聖壽寺え以手 紙申遣之

同年 九月二五日

一、釜屋五郎八、一昨廿三日、時鐘鑄直也、今日出申候、成程能出来申由、野田弥 右衛門申上之

同年 一月四日

一、今日、聖壽寺へ承合新撞鐘之銘切付させ候様にと、野田弥右衛門に申渡、但聖 壽寺鐘寸方申合切付候様にと申渡す

同年 二月三日

一、今度新規に為御鑄立被遊候撞鐘、三戸町裏丁下田重右衛門前土手之上、鑄 被仰付故、御城之内時太鼓打候者、自今以後撞鐘申等、依之時太鼓有之候所 之道具改、岡本孫左衛門同心請取置

一、盛岡廻城下時鐘、唯今迄、とつこへに斗巻つ有之に付、巻つにては盛岡廻へ聞 兼候故、当春 信濃守様被仰付時鐘新規に巻つ、釜屋五郎八新城館之下にて 鑄立申候、高さは龍頭迄六尺七寸、指渡四尺、惣廻老丈式尺五寸、輪口厚さ五 寸、此鐘地かねの入方

一、銅九百五拾九貫百目、此内百貳拾貫目湯残る

一、錫八拾貫目 一、とたん六拾貫目

一、五拾貫五拾目 鉛

右之鐘、三戸町南彦八郎前之土手の上、鑄 樓堂三間四方建立被 仰付、御 城時太鼓唯今迄打申者鐘撞に被仰付、今日吉日に付、申の刻より撞始之、右 之鐘之銘聖壽寺へ被仰付、銘之写

奥州路磐手郡盛岡縣城北更鐘銘并序

(略)

鑄場監吏 野田弥右衛門長政

大工 小泉五郎八

聖壽寺萬年禪寺住持比丘大衛叟釈生安謹誌

破申候、依之今度赤次半左衛門寄進為鑄申候、鐘樓慶安元年御建立、其以後
兩度御修復被 仰付候得共、久々之儀故柱朽、鐘釣申儀成兼候、御建立被
仰付被下度旨申上、願之通被 仰付之

同年 一二月二日

一、御小納戸

釜屋仁左衛門、願之通肴町十右衛門第五郎八養子被 仰付候間、御細工稽古
可仕被仰渡

同年 一二月二五日

一、月次之御礼被為請、御一門・高知之面々・御物頭御礼、(略)初て御釜屋仁左
衛門子五郎八、於外御縁側鳥目を以御礼申上

同年 一二月六日

一、名改被 仰出

(略)

一、釜や仁左衛門子五郎八事 五郎七 (略)
右之通名改申上、願之通被仰出之旨、御目付岩間十郎左衛門え申渡之

享保二年(一七一七) 八月五日

一、松前志摩守様え御国細工釜一口、御肴一折被進付、今測十郎太夫預御徒白岩
権七え御小者一人貸遣、尤才領御足輕附、路金相渡遣之

享保八年(一七二三) 四月一五日

一、月次之御礼辰之刻被為 請、(略)初て研嘉兵衛子長十郎、釜屋左吉子清藏、
小細工師平八子嘉七、外御縁側にて御礼申上

同年 六月二三日

一、御釜師 仁左衛門

其方親仁左衛門え御預け被成候弟子清吉子吉藏義、御細工御用も相勤候付、
清吉に被下置候御擬被下度旨申上、願之通御切符式而老人扶持、味噌・真木
共に被下置旨被 仰出

享保九年(一七二四) 一二月八日

一、今日諸士名改、願之通被 仰出

(略)

釜屋仁左衛門子五郎七事 仁兵衛

右之通知願被 仰出、御目付共を以申渡

享保一〇年(一七二五) 二月二九日

御釜師仁左衛門悻仁兵衛事 弥助

右名改、願之通於御家老席、御小納戸大卷喜六え美濃申渡之

元文二年(一七三七) 七月七日

一、御釜師仁左衛門弟子清吉、年四拾五、去る朔日より相見得不申、心当之所相尋
申候得共、往方相知不申段、仁左衛門訴書、御小納戸以未書訴之

寛保元年(一七四一) 七月二九日

御小納戸

御釜師仁左衛門悻弥助、先達て病死、孫有之候得共幼少に付、弥助弟四郎作
拾七歳罷成候、此者養子被 仰付被下度旨申上、願之通被 仰出、於席申渡
之

同年 八月二八日

一、月次御礼被為 請(略)初て鳥目差上御釜師仁左衛門子四郎作、右之通御礼申
上る

小泉仁左衛門家の系譜 比較表

〈筆者案〉

① 清行
 五郎七
 万治二年(一六五九) 召抱え
 延宝八年(一六八〇) 三月十六日没?
 清誓浄心信士?

② 清則
 五郎八、仁左衛門
 正徳三年(一七二三) 一月二十四日没
 清誓浄因信士

③ 清尊(清高)
 五郎作、仁左衛門
 宝暦五年(一七五五) 二月十三日没
 癸生浄心信士

④ 清則
 四郎作、仁左衛門
 天明四年(一七八四) 五月二十六日没
 随願純道信士

④ 清光(清忠?)
 五郎八、仁左衛門
 文政十年(一八二七) 四月二十九日没
 光寛浄田居士

⑤ 清定
 久吉、四郎作、仁左衛門、仁兵衛
 嘉永七年(一八五四) 九月二十一日没
 清誓意含浄心居士

⑥ 政善
 金平、仁左衛門
 明治十八年(一八八五) 一月二十六日没
 祥心軒良繁泉誓仁榮居士

⑦ 友弥
 清信
 仁衛門、仁左衛門

⑧ 清信
 仁衛門、仁左衛門

〈小泉家家伝〉

初代
 清行
 五郎八、仁左衛門
 万治二年(一六五九) 召抱え
 正徳三年(一七二三) 一月二十四日没
 徳光院清誓浄田居士

二代
 清則
 四郎作、仁左衛門
 宝暦五年(一七五五) 二月十三日没
 癸生浄心居士

三代
 清尊
 仁左衛門
 天明四年(一七八四) 五月二十六日没
 随願純道居士

四代
 清光
 仁左衛門
 文政十年(一八二七) 四月二十九日没
 光寛浄田居士

五代
 清定
 仁左衛門
 嘉永七年(一八五四) 九月二十一日没
 良教清誓意含浄心居士

六代
 金平
 仁左衛門
 明治十八年(一八八五) 一月二十六日没
 祥心院良繁泉誓仁榮居士

七代
 友弥
 仁左衛門

八代
 清信
 仁衛門、仁左衛門

九代
 清樾
 清一、仁左衛門

十代
 清明
 明央、仁左衛門